

CAD情報

✓コスト ✓使いやすさ ✓2次元CAD資産の活用

AutoCAD LTからのステップアップに最適! より高機能な設計環境へのスケーラビリティも確保した 製造業向け「AutoCAD Inventor LT Suite 2011」登場

機械部品設計のための2D&3Dソリューション「AutoCAD Inventor LT 2011」が満を持して発売された。協力メーカーからの要請や、ビジネスチャンス拡大のため、2次元から3次元CADへ展開したいと考えている企業は多い。その気持ちを阻んでいた、高コスト・ソフト習得時間の長さ・2次元CADのデータを活かさないといった懸念を「AutoCAD Inventor LT 2011」はクリアした。どれだけ楽に3次元へ移行できるのか、エンドユーザー様へのセールストークも含めてご紹介する。



オートデスク株式会社
技術営業開発 製造ソリューション
副本部長 塩澤 豊氏
製造ソリューション
フィールドマーケティング&
ビジネスデベロップメント
草野 多恵氏

多くの現場に出向き、3次元に移行しない理由を伺いました。その答えが本製品です。すべての2次元CADユーザーが3次元へ移行する際の助けとなるでしょう

3次元設計の導入をスムーズにする 待望の新バージョンが発売

2010年5月に販売開始された「AutoCAD Inventor LT Suite 2011」は、製造業向けの機械部品設計のための2D&3Dソリューションを提

供する製品だ。2次元CADから3次元CADへ移行機会を伺う製造業をターゲットとしている。

「AutoCAD Inventor Suite LT 2011」には、2次元ドラフティングCAD「AutoCAD LT」と機械部品設計向け3次元CADの「Autodesk Inventor

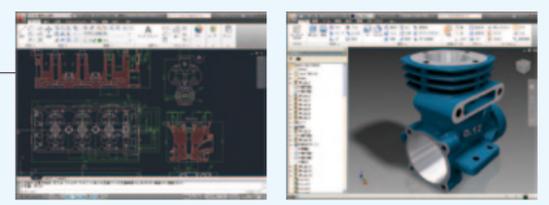
LT」を同梱。2次元と3次元の両方を扱え、企業における設計の3次元化へ向け、橋渡しの役割を担う。

オートデスク株式会社 技術営業開発 製造ソリューション 副本部長 塩澤 豊氏は、「弊社の調査で、製造業のほとんどの方は『3次元CADへ移行した

2次元CADから3次元CADへの移行を解決する「Inventor LT Suite 2011」

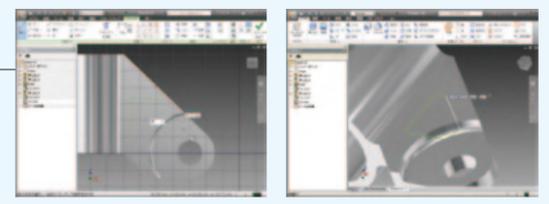
最新版の「AutoCAD LT」と「Autodesk Inventor LT」が同梱

オートデスク製品は、2次元/3次元CADを共通の操作感で扱える。2次元の設計環境を確保しつつ、3次元の設計により、作業時間は短縮されるうえ、見せ方のバリエーションが豊富になるなどメリットは非常に大きい



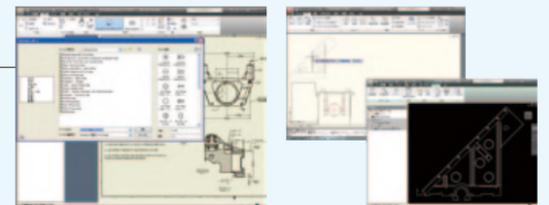
作図機能の強化で迷わず操作できる

ダイレクトマニピュレーション機能により、スケッチ中に直接寸法入力が行える。オブジェクトをクリックすると、「今行える作業」が表示されるため、初めての3次元環境でも迷わずに作業ができる



2次元CADの資産をダイレクトに活かせる

AutoCADのデータであるDWGファイル内のブロックをブラウズして選択し、直接「Inventor LT」の作業スペースに取り込むことが可能。2次元資産を、よりスムーズに有効活用できる



い」と考えていることがわかりました。3次元化にあたり、コストや習得時間、過去の設計資産を活かせないことをユーザーは懸念していましたが、本製品ではそれを解消しています」と説明する。

まず、ユーザーの持つ豊富な2次元CAD資産を活かすのが「ブロックブラウザ」だ。「Inventor LT」での作業中に、「AutoCAD LT」を起動することなく、過去のデータ(DWG)から使いたいブロックだけを3次元環境へと簡単に取り込める機能だ。

また、作図機能が大きく改善され、オブジェクトをクリックするだけで、「今できる操作」が簡単に選べるようになった。製造ソリューション フィールドマーケティング&ビジネスデベロップメント 草野 多恵氏は「操作に迷ったら『クリック』と覚えてください」と説明する。

最後にコスト面だが、3次元CADとして用途・機能を機械部品設計に絞り、低価格化を実現した。現在行われているキャンペーン価格はさらにお得な価格設定なので、この時期の導入を提案したい。

「Inventor Suite」への移行も見据え「Inventor LT Suite」を提案しよう

「Inventor LT」は、機械部品設計に機能を絞ったとはいえ、3次元CADならではの高効率な設計環境や、他のオートデスク最新製品で搭載された、「マテリアルライブラリ」などのビジュアルライゼーション機能なども利用できる。

「『Inventor LT』では、スケッチ作成時の寸法入力が直接行え、常に最終形状が確認できるプレビューを見ながら作業できます。そのため3次元CADならではの手戻りの少ない高効率な設計が行えます。また、新機能のマテリアルライブラリは、従来なら専用の3次元CGソフトでなければ表現できないようなビジュアルが、誰にでも簡単に作成可能です」と塩澤氏。上位版の「Autodesk Inventor」と比較して機能が限定されているとはいえ、3次元設計の入り口というには余りある機能といえる。

塩澤氏は、「3次元環境を手に入れたお客様の中には、協力企業の要請があることも見逃せません。導入を

機に、ビジネスチャンスも広がることでしよう」と語る。

また、「Inventor LT」の最大の魅力は、そのスケーラビリティにある。必要に応じて上位版である「AutoCAD Inventor Suite」を導入することで、アセンブリや構造解析、機構解析などのシミュレーションが自社で行える環境を構築できる。

「3次元への移行にあたっては、アセンブリが必要なければ『Inventor LT』が最適です。必要なときに、業務に適した上位版をご購入ください」と塩澤氏。

「Inventor LT」は、価格を抑えたた

「AutoCAD Inventor LT Suite 2011」はこんな方におすすめ

- アセンブリを必要としない 部品加工業の方など
- 低コストで3次元設計での生産性と製品の品質向上を獲得したい方
- DWGデータを3次元設計の元データにしたい方

め、3次元化への意欲を持つ企業にも導入のハードルが低い。また、将来的には、「Inventor Suite」の見込みがあるお客様ともなるため、引き続きご提案を行っていただきたい。【BP】

AutoCAD Inventor LT Suite 2011発売キャンペーン実施中

期間: 2010年5月12日 ~ 2010年7月15日

最大**29%OFF**

サブスクリプションとのセット販売は格安になります

単体価格	サブスクリプションセット価格	
AutoCAD Inventor LT Suite 2011 新規購入価格 キャンペーン価格(税込) 20万8,950円 通常価格(税込) 23万6,250円	キャンペーン価格(税込) 23万7,300円 (内訳) ●Inventor LT Suite 2011(税込) 19万9,500円 ●サブスクリプション(1年)(税込) 3万7,800円	
AutoCAD LT 2008-2011 からのアップグレード キャンペーン価格(税込) 9万3,450円 通常価格(税込) 11万8,650円	キャンペーン価格(税込) 11万1,300円 (内訳) ●Inventor LT Suite 2011(税込) 7万3,500円 ●サブスクリプション(1年)(税込) 3万7,800円	
AutoCAD Inventor LT Suite 2010 からのアップグレード キャンペーン価格(税込) 9万3,450円 通常価格(税込) 11万8,650円	キャンペーン価格(税込) 11万1,300円 (内訳) ●Inventor LT Suite 2011(税込) 7万3,500円 ●サブスクリプション(1年)(税込) 3万7,800円	

■オートデスク AutoCAD LT ファミリー製品ラインアップ

AutoCAD Inventor LT Suite 2011
「AutoCAD LT」と初心者最適な3次元CADの「Autodesk Inventor LT」がセットになった2次元/3次元CAD製品

AutoCAD LT 2011
簡単に操作できる分かりやすさと、作業効率を大幅にアップするための豊富な機能を搭載した2次元ドラフティングCAD

AutoCAD LT Civil Suite 2011
「AutoCAD LT」と電子納品用SXFデータ作成を支援する「Autodesk CALS Tools」がセットになった土木・公共事業向け製品

AutoCAD LT 2011、および AutoCAD LT Civil Suite 2011も キャンペーン実施中